奨学生(第4期生)からのメッセージ

Iさん（筑波大学大学院　生物資源科学）

研究を続けたいという一心から大学院へ進学した一方で、経済的な理由からアルバイトを増やさざるを得ず、研究を満足に進めることに不安がありました。こうした状況下でサカタ財団様は、アルバイトを削減し研究活動に集中して取り組む環境をくださいました。その研究成果は新たな農業資材の開発に寄与し、近日中に製品化されて農業現場で作物の生産を支える予定です。また、時間の余裕が生じたことで、大学院ではさらに自然保護学を副専攻として修了し、専攻とは異なる視点で農業を捉えることができました。

農業を多角的に学び、製品として現場に還元するといった、まさに「未来にタネをまく」を実現できたのは、サカタ財団様の厚いご支援によるものであり、大変感謝しております。

現在奨学生の皆さん、これから奨学生になる皆さんもご支援を存分に活かして幅広く経験を積み、自分の目標に向かって進まれることを願っています。

Nさん（新潟大学大学院　現代社会文化研究科）

私は、大学院入学から修了に至るまでの約1年半、サカタ財団の奨学生としてお世話になりました。入学当初は、大学院生活の忙しさや、学業や就職活動に対するさまざまな不安を抱えていました。特に私は地方に住んでいたため、首都圏での就職活動には、交通費や宿泊費などの諸経費がかさみました。奨学生として選ばれていなかったら、自ら選択肢を狭め、地元での就職を選んでいたかもしれません。

しかし、奨学生として選んでいただけたことで、「どんなことにも臆することなく挑戦すること」ができるようになったと実感しています。結果として、第一志望の職種の説明会や採用試験にも積極的に挑戦することができ、幼い頃からの夢であった、心理専門職として働けることが決まりました。これまでは奨学生として支えていただいた身でしたが、これからは一社会人として社会に貢献し、今の社会をよりよくすることができるよう、より研鑽を積んでいきたいと思います。

Nさん（国際教養大学　国際教養学部）

サカタ財団様のご支援により、金銭的な心配をすることなく授業や課外活動に集中し、存分に勉学に励むことができました。在学中には1年間韓国に交換留学に行き、正規生向けの歴史・政治の授業を履修したり博物館に行ったりして韓国側の歴史認識について学びを深めると同時に、課外活動として北朝鮮の安全保障問題を扱う部活に参加し、さらに多角的な視野を得ることができました。

また、財団様のご支援のおかげで、長年抱いてきた将来の目標を叶えることができました。私は中学生のころから国際公務員を志しておりましたが、財団様主催の交流会にて幅広い分野でご活躍される財団理事会の皆様や奨学生の皆様とお話をしたことで非常に良い刺激を受け、日本を代表して世界平和に貢献したいという思いを新たにしました。そして、大学と並行して必要な知識を身につけるべく予備校に通い、新年度より日本外交の一翼を担う機会をいただけることとなりました。

サカタ財団様の継続的なご支援に深く感謝いたします。

本当にありがとうございました。

奨学生(第4期生)からのメッセージ

Sさん（東京農業大学大学院　国際農業開発博士前期）

私は、大学院ではできる限りの時間を研究活動に使いたいと考えていたことからサカタ財団の奨学生に応募しました。奨学生に選んで頂いたことで、２年間アルバイトなどの時間に気を取られることがなく、研究活動や勉強に優先して取り組むことができ、その結果自身の納得がいく研究活動を行うことができました。また、研究活動の合間に学会や英語の合宿などにも多数参加することができ、研究能力や英語力などのスキルを高めることができました。また、２年間必死になって研究活動に取り組んだことで研究の難しさやそれを上回る楽しさを改めて実感することができ、今後も研究活動に携わることで、農業の発展に貢献できる人材になりたいと強く考えるようになりました。今後は、サカタ財団から頂いたご支援を忘れず、自身の目標や夢を達成するために、日々努力を続けていきます。

Lさん（早稲田大学大学院　アジア太平洋研究科）

私はサカタ財団の第4期奨学生として、学校生活や将来の進路において多くの変化を経験しました。まず、サカタ財団の奨学金は私にとって非常に大きな支援となりました。修士2年生の時、学業と就活が両立するのは難しい状態の時に、奨学金によって負担が減ったことで、学業に専念でき、さまざまな活動に参加する余裕ができました。

また、学校生活だけでなく、将来の進路においても奨学生としての経験は大きな影響を与えました。同じく奨学生として選ばれた仲間たちとの交流は、互いに刺激を受け合い、成長の機会となりました。さらに、サカタ財団のサポートがあったことで、地域や業界の専門家ともつながり、新たな視点やアドバイスを得ることができました。

最後に、サカタ財団の奨学生としての経験は、私の人生において不可欠な一部となりました。財団の温かいサポートと奨学生としての誇りを胸に、私は自分の夢に向かって歩み続けています。奨学生としての経験が皆さんにも同じような充実感や自信をもたらすことを心から願っています。

Aさん（東京大学大学院　新領域創成科学研究科）

貴財団より金銭的援助をいただいたことで，以前より格段に時間的余裕が生まれました。結果として、今までよりも研究／課外活動に没頭できる時間が長くなり、国際学会などで成果を出すことができました。そして修士課程2年間で経験した活動と，培った能力によって私の将来の目標や目標達成までの道筋がより鮮明になりました。加えて、奨学生に選出いただいたことで、多種多様な志を持った奨学生の方々と出会うことができました。高い志を持つ同世代の方々と話をすることで、私のモチベーションは大きく向上しました。まだまだ未熟ではありますが、奨学生に選出いただいたことで経験できた多くのことを糧に、今後の活動に対しても全力で取り組んでいきたいと思います。

末筆ではございますが、貴財団なくして、私の修士課程はありません。感謝申し上げます。ありがとうございました。